

<リアルワールドの男性育休、育児参画がもたらす泌尿器科維新>

日時：11月15日（土）15:00～16:10

会場：高知県立県民文化ホール 1F グリーンホール（第2会場）

大会長：井上 啓史 先生（高知大学医学部 泌尿器科学講座）

座長：井上 啓史 先生（高知大学医学部 泌尿器科学講座）

濱崎 和代（社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 泌尿器科）

本企画は、第77回西日本泌尿器科学会総会のテーマ「泌尿器科維新」を基盤として企画された。近年、育児・介護休業法の改正や「産後パパ育休」制度の導入など、多様な働き方を支える法整備が進み、若手世代を中心にライフワークバランスへの意識も高まっている。こうした社会的背景のもと、男性医師の育児参画は着実に増加していると考えられる。男性医師が育児に主体的に関わることは、個人の家庭事情にとどまらず、医療現場の働き方改革や組織文化の変革、ジェンダー平等の推進、さらには持続可能な医療体制の構築にも寄与する重要な要素である。本企画は、各登壇者の実体験をもとに「泌尿器科維新」を体現する取り組みの一つとして行われた。

基調講演：

～男性育休・育児参画を増やすための草の根活動～

大分大学医学部附属病院 男性医療人パパの会 ペンギンズの取り組み

大分大学医学部附属病院 女性医療人キャリア支援センター 副センター長/大分大学福祉健康科学部 教授
中田 健 先生

① 泌尿器科医における育児休業取得の実態

徳島大学大学院医歯薬学研究部 泌尿器科学分野 塩崎 啓登 先生

② 医師育児のリアルワールド - 夫の側から -

独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター 腎移植外科 德永 素 先生

③ 男性育休は“家族革命”か？妻の視点から見えた新しい可能性

独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター 泌尿器科 松三 あずさ 先生

④ 共働き医師夫婦のワークライフバランス

高知大学医学部 泌尿器科学講座 透析部 刑部 博人 先生

大分大学 中田 健先生の基調講演では、シンポジウムの題名に「育休取得」にとどまらず「男性の育児参画」を掲げている点についてご評価をいただいた。大分大学における男性医療人パパの会「ペニギンズ」の取り組みでは、人数が少くとも会を継続し、悩みや日常の出来事を語り合える場を持つことの重要性が紹介された。また、女性のキャリア支援や男性の育児参画については、学生時代から意識を育てる“種まき”が大切であること、さらに大分県内での育休取得状況や院内保育の有無をまとめた冊子作成の取り組みについても共有された。

続いて、徳島大学 塩崎 啓登先生より、泌尿器科医を対象に実施したアンケート調査の結果が報告された。本調査は泌尿器科医に限定した初めての実態調査であり、651名（男性 74.7%、女性 25.2%、その他

0.01%) から回答を得た。結果からは多くの示唆が得られた。女性回答者の約6割が育休取得を希望し、5割以上が実際に取得していた一方、男性回答者では約2割が育休を希望しながら、実際の取得率は1割未満であり、男性医師の育休取得の困難さが明らかとなった。また、育休取得者の約80%は泌尿器科医4名以上の施設に勤務しており、1~2名体制の施設では育休取得が極めて困難であった。育休取得を断念した理由として最も多かったのは「代替要員の不足」であり、育休取得の促進や仕事と育児の両立に必要な条件としても「代替要員の確保」が最多であったことから、人手不足が大きな課題であることが示された。（尚、アンケート調査結果詳細については後日泌尿器科学会ホームページに掲載予定である）

岡山医療センター 徳永 素先生からは、実際に育休を取得した経験が報告された。育休期間は約1か月であり、当時の職場の人員が充足していたことが取得につながったとのことであった。パートナー出産後には買い物や夜間授乳などの育児・家事を担当し、こうした実践が育休終了後も育児へ積極的に関わる基盤となったことが語られた。

岡山医療センター 松三 あずさ先生からは、パートナーに育休取得を積極的に働きかけ、自ら依頼した経験が紹介された。取得期間は1週間と短期間であったが、産後の精神的にも肉体的にも不安定な時期に一人で育児を担う困難さが実体験として共有された。先生は育児を“車の運転”に例え、部分的な作業の分担ではなく、全ての工程を自らできるようになることの必要性、そしてパートナーと同じ温度感で育児に向き合うことの重要性を述べられた。

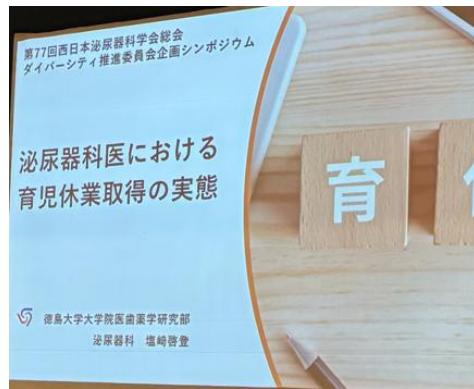
最後に徳島大学 刑部 博人先生からは、育休を取得していないものの、共働き夫婦として育児に参画する中で直面した課題が共有された。単身赴任によりパートナーがワンオペ育児となった際には義母の支援が不可欠であること、また職場では医療チームの協力により育児と仕事の両立が可能となっている現状が示された。育児は当事者のみならず、家族や職場など周囲の支援が重要であるというメッセージが共有された。

ご登壇いただいた先生方からは、それぞれの立場から、男性育休や育児参画について実体験に基づくご発表をいただいた。閉会式直前の開催であったため座長を務めて下さった高知大学 井上 啓史先生や、登壇者の先生方との記念撮影ができなかったこと、また参加者がやや少なかったことは残念であったが、本シンポジウムが泌尿器科領域における働き方や育児参画のあり方を見直す契機となり、「泌尿器科維新」への一歩となることを期待したい。

（文責：濱崎 和代）

大分大学 中田健先生





徳島大学 塩崎 啓登先生

写真提供：徳島大学 山本恭代先生。

時間の都合により集合写真を撮影できませんでした。写真をご提供くださいました山本恭代先生に深く感謝申し上げますとともに、当日ご登壇いただきました先生方には心よりお詫び申し上げます。